



2023年7月31日放送

「第73回 日本皮膚科学会 中部支部学術大会 ①

大会を終えて」

富山大学大学院 皮膚科
教授 清水 忠道

はじめに

2022年10月29日(土)、30日(日)の2日間にわたり、富山国際会議場において、第73回日本皮膚科学会中部支部学術大会を主催しました。企画した段階では、新型コロナウイルスの感染状況の予測は困難でしたが、状況が許せば直接語らい合う場になることを切に願い、現地およびWeb配信併用のハイブリッド開催にしました。

この学術大会は、1986年に、富山大学の初代教授であります諸橋正昭教授も第37回大会を主催しました。この1986年は、私が皮膚科医になった年でもあります。そして偶然にも、富山市で開催されたこの時の中部支部学会が、私にとって初めて参加した大きな学会でした。当時、北海道大学にいた私は、初めて富山市を訪れ、市内のあちこちを探索したことが思い出されます。この37年の間に北陸新幹線が開通し、市内も整備され、富山市は素敵な路面電車のある街になりました。学会初日の夕方には、多くの先生方が街に繰り出されていました。海の幸山の幸の、富山の味覚を楽しんでいただけたなら、嬉しく思います。

第73回 The 73rd Annual Meeting of the Central Division of JDA

日本皮膚科学会 中部支部学術大会

Time's arrow and evolution of Dermatology
— 時の矢と皮膚科の進化 —

会期 2022年10月29日・30日

会場 富山国際会議場
〒930-0084 富山市大手町1番2号

会長 清水 忠道
(富山大学医学部皮膚科学講座)

事務局長 牧野 輝彦
(富山大学医学部皮膚科学講座)

運営事務局
公益社団法人日本皮膚科学会内 大会運営部 運営チーム
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-4 TEL: 03-3811-0070 FAX: 03-3812-0793

URL: <https://cjda73.jp/>
E-mail: cjda73@dermatol.or.jp

富山大学医学部皮膚科学講座
〒930-1041 富山県富山市6-2-30

JDA

学会テーマ「Time's arrow and evolution of Dermatology」

さて、そもそも皮膚科の学問としての始まりは、イギリスの外科医、ダニエル・ターナーによる1714年の「De Morbis Cutaneis」という、皮膚科の医学書からの学びになります。この本は現在残っている、最古の皮膚科の英語の本であります。その後、皮膚病で見られる発疹を、詳細に分類することから皮膚科学の歴史は始まり、約300年の時を経て、今日の発展があります。その歴史の中で、今回の学会大会のテーマは、「Time's arrow and evolution of Dermatology」とし、邦題は「時の矢と皮膚科学の進化」にしました。紫外線発癌研究の第一人者である、ハロルド・ブラム の名著であります1951年の、『time's arrow and evolution』をアレンジしたものです。皮膚科学の絶え間ない発展を願って、このタイトルにしました。激しく変化する時代の中でも、私達は後退することなく、常に前に向かって歩み続けていかななくてはならないという気持ちを込めました。

当日は穏やかな好天に恵まれ、少しずつ旅行者が増え始めた時期のためか、約650人のご来場があり、9割埋まっていた会場もみられました。“ハイブリッドにすると来ないで済ませる先生が多くなるのでは”という心配は杞憂でした。あちこちで「久しぶり！」の声がかれ、対面での再会を実感できた学会でした。学会登録者も1,350人を超え、それでもWeb併用には、「用事があり富山往復は無理だったが、一部分でも視聴できたのはありがたかった」との感想が寄せられました。

大会前日には、嚴重な感染対策をした上で、時間と人数限定の会長招宴会を開くことができました。もっと多くの先生方を招待したかったのですが、このあと12月には感染者が増えて宴会禁止になったことを思うと、致し方ありません。鏡開きは学会の幕開けにふさわしく、翌日からの学会の景気づけになりました。また、おわら風の盆の保存会の皆さんに出向をお願いし、全国的にも有名な、風の盆の踊りを披露してもらいました。



プログラム

さて、ここで特別講演のプログラムについて説明します。まず中邨 智之教授には、「弾性線維の形成と再生の分子メカニズム」で、講演をお願いしました。中邨先生は弾性線維研究の第一人者であります。光老化した皮膚では弾性線維に異常を生じ、日光弾性線維症を発症しますが、中邨先生とはこの日光弾性線維症に関して一緒に共同研究しており、この病態についてもお話しくささいました。次に、佐藤 守俊教授には、「生命現象の光操作技術の創出」という題目でお話しいたささいました。光を使って生命現象を見るだけでなく、細胞内シグナル伝達を光で操作する研究成果を話しくささいました。光刺激でゲノ

ムを自由自在に操作する技術開発には感銘しました。佐藤先生と私は、光医学・光生物学会でも交流があり、お願いした次第です。荒瀬 尚教授からは、「ネオセルフによる新たな自己免疫疾患発症機構」という題目で、MHC クラス II 分子によって形成される異常な自己抗原、すなわち「ネオセルフ」が、自己免疫疾患の発症に関与していることを最近明らかにし、その原因の解明や、新たな創薬標的としての重要性について、わかりやすくお話しいただきました。荒瀬先生は私の北大の 5 年後輩に当たり、その縁もありお願いしました。

特別講演は日常の診察とは違った視点のご講演でしたので、「勉強になりました」「こんなことができるのですね」などのコメントが寄せられました。さらに教育講演として、「明日から使える！皮膚潰瘍の診断と治療」「皮膚付属器疾患最新トピックス」「皮膚外科の極意」「ウイルス感染と腫瘍」「楽しく学ぶ！皮膚病理」を、それぞれエキスパートの先生方をお願いしました。そのほか、シンポジウム、ミニシンポジウムや、モーニング、ランチョン、スイーツ、イブニングのスポンサードセミナーには、多数の企業にご協力いただきました。また、一般演題には 153 題ものご応募がありました。大会会長として感謝申し上げます。

ここ 10 年で皮膚疾患の病態の解明は格段に進み、目覚ましい治療効果が得られるようになりました。例えばメラノーマには免疫チェックポイント阻害剤、アトピー性皮膚炎や乾癬には生物学的製剤など、10 年前にはなかった治療法が確立しています。一方、最新の治療は両刃の剣でもあり、患者さんの治療に対する要求も多くなっています。本学会は、今大きく変容を遂げている皮膚科学の、最新情報の収集の場となったと思います。

続いて、5 年振りとなりますハンズオンセミナーのテーマは、「皮膚外科学へのいざない」「関節エコーの実践」でした。参加者は皮膚外科志望、または外科手技を学びたい多くの若手医師や、「せっかく学会に参加するなら学んで帰りたい」「勤務先で局所皮弁をやってみたい」など、意欲的な医師が多く、実際に豚皮を用いて、デザイン、切開、縫合などの手技を行いました。実際に手を動かさないと説明が困難な内容も多く、参加者は目を輝かせて、「すごく勉強になります」と喜んでいました。少人数だからこそ、各受講生のレベルに合わせ、マンツーマンできめ細やかに指導できたのはよかったと思います。全体で 2 時間というセミナーでしたが、最後は「もっとやりたい」という気持ちを残したまま時間終了となり、指導者、参加者双方が満足したセミナーになりました。



おわりに

最後に、ご講演、ご参加くださいました先生方、誠にありがとうございました。また本学会開催の事前準備や運営には、多くの方々にご尽力いただきました。事務局長をはじめ運営事務局の皆様、富山大学医学部皮膚科教室員、地域の開業医の皆様にご心より感謝申し上げます。



「マルホ皮膚科セミナー」

https://www.radionikkei.jp/maruho_hifuka/